

# ケアマネ通信

第19号  
2023  
Nov.



## 湘南ウエスト大磯二宮介護事業者連絡会

湘南ウエスト大磯二宮介護事業者連絡会は、現在、大磯町、二宮町で介護のサービスに携わり、事業を展開している46法人、82事業所が所属しています。両町の包括支援センターが事務局を担い、代表幹事、通所部会、訪問介護部会、介護支援専門員部会、主任介護支援専門員部会が中心となり活動しています。具体的には、全体会（講演会を含む）を年3回、各部会の年2回の研修会開催が主な活動となります。

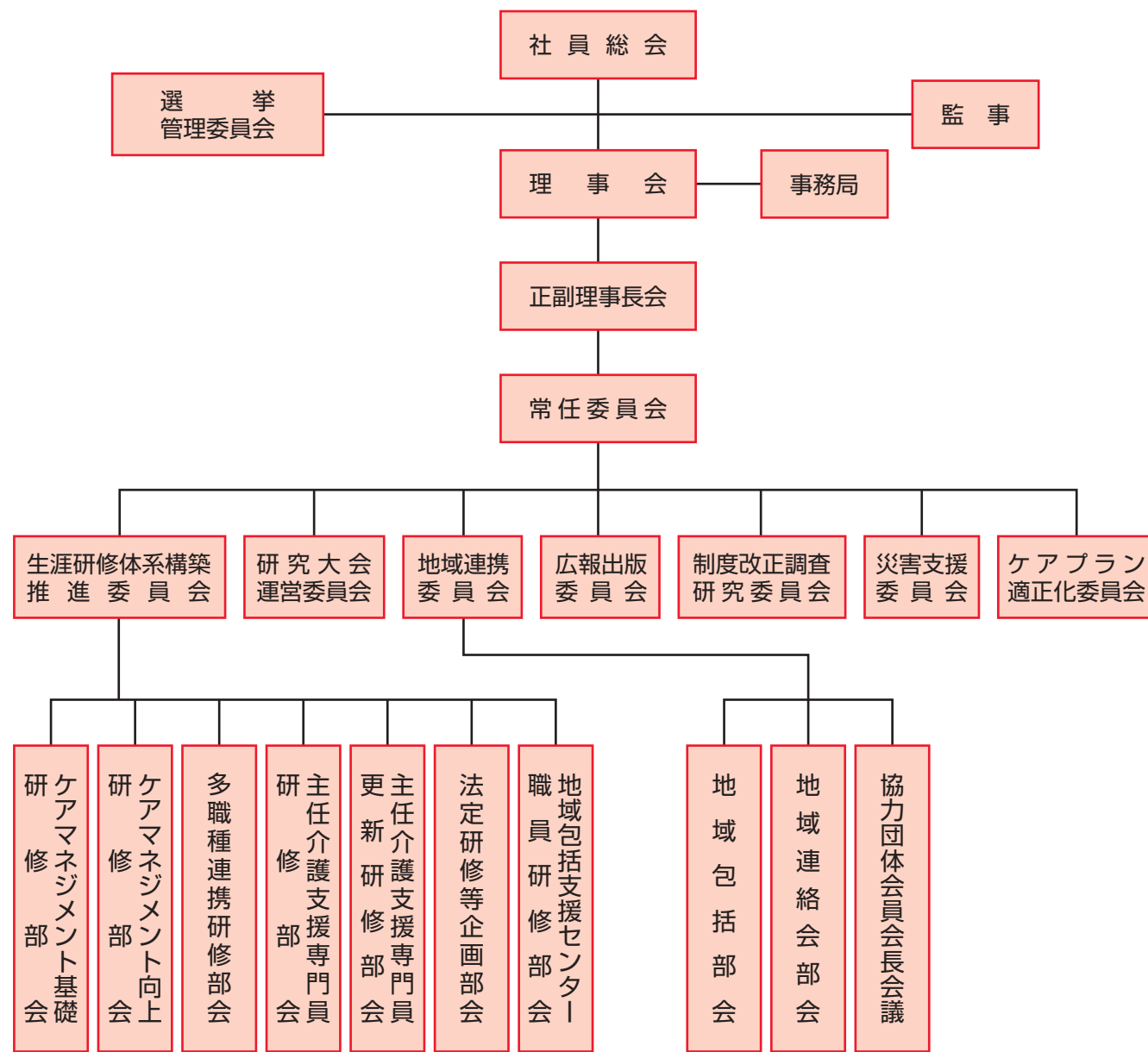
今年で、当連絡会が設立され20周年となります。小さな町同士、その中で作った小さな連絡会です。20年間で少しずつ積み重ねてきた、連絡会員、各法人、保険者そして住民間との“顔の見える関係性”というのは大きな強みではないかと自負しています。今後は、それをさらに推し進め、講演会・研修会を例に挙げれば、会員各自が問題提起し、それを共有し企画立案していくといった、“我が事・丸ごと”的な、小さな連絡会だからこそ可能な全員参加型の連絡会運営を目指していければと考えています。

湘南ウエスト大磯二宮介護事業者連絡会 代表幹事 吉澤 学

## 目次

組織図	2	ケアマネリレーコラム	5
委員会紹介（地域連携委員会 地域包括部会）	2	“かまくらびと”の生活支援を考える Part.2	6
委員会紹介（制度改正・調査研究委員会）	3	ケアマネあるある	7
委員会紹介（地域連携委員会 地域連絡会部会）	4	編集後記	7
委員会紹介（ケアマネジメント向上研修部会）	4	インフォメーション	8

## 令和5年度 一般社団法人 神奈川県介護支援専門員協会 組織図



### 委員会紹介

地域連携委員会 地域包括部会 部会長 岩本 朋子

地域連携委員会に属するこの部会は「地域包括支援センターの現状、取り巻く地域課題の共有を図るため、県内各地域の包括支援センターが意見交換する機会を設け、共生社会実現に向けた地域包括ケアシステムの取り組みや地域課題、地域ネットワーク構築等について検

討し、包括支援センター機能強化や従事者の資質向上を図る」ことを目的に部会運営を行っています。平たく言えば、包括支援センターにおける旬の課題を県内のセンター職員相互で検討や共有ができる場となればいいな、といった思いから年2回の「地域包括連携会議」の企画運営を行っている部会です。

今年度のテーマは「災害における地域包括支援センターの立ち位置」、そして今後さらに増えるであろうヤングケアラー問題や8050問題など多問題世帯に対応できるための「相談力のスキルアップ」としています。

この部会では、包括支援センター職員だけではなく、車の両輪として共に進むべく市町村の主管担当職員も出席されます。包括支援センター職員、そして市町村職員と旬のテーマを共に考えていく、そのような地域包括連携会議の開催を目指しています。

令和5年度第1回地域包括連携部会は11月8日に「災害時における地域包括支援センターの役割」をテーマに開催いたしました。第2回は2月頃開催の予定です。今後のテーマについては会員の皆様からもご意見いただければ幸いです。

### 委員会紹介

制度改正・調査研究委員会 委員長 荒井 良博

制度改正・調査研究委員会は、現在の一般社団法人となる前のNPO法人の時から活動を行っています。当初は制度改正対策委員会としてスタートし様々な調査を行い、行政等に提言を發出しておりました。過去に行った主な調査としては2009年に厚生労働省の老人保健健康増進等事業を受託しケアマネジメントの質に関する調査事業を行い報告書の作成を行いました。2014年には「給付管理まで結びつかなかった支援業務に関する提言」で、介護支援専門員が支援を行ったが給付に結びつかなかった業務に関して、その支援の評価をするように提言を行いました。2017年には「在宅ターミナルケアに関する調査」を行い、ターミナルケア加算についての提言を行い、ターミナルケア加算の創設につながりました。2018年からは区分支給限度額に係る調査を開始し毎年報告書を作成し、2019年の一般社団法人日本介護支援専門員協会全国大会四国において研究発表を行いました。その後コロナ流行下においても月に一回は委員会をZOOM開催し区分支給限度額に係る調査を行い、調査結果をもとに提言を行う予定です。

さらに今年度は、各地域でケアマネが不足しているということが良く聞かれるようになったことから、ケアマネ不足の具体的な原因を明確にして、提言を出す準備を行っています。皆様にはまたアンケート調査をお願いすることになりますがご協力をお願いします。

## 委員会紹介

地域連携委員会 地域連絡会部会 部会長 中馬 三和子



当部会は、県内地域市町村連絡会から委員を出していただき運営しています。地域の皆様いつもご協力ありがとうございます！様々な地域特性の中から共通課題や問題を出し合い、毎月の部会で積み上げられた内容から「連携会議」として県内各地域連絡会参加型で年2回開催しています。近年は地域で組み立てにくい、講師を呼びにくいけど学びたい共通課題解決に向けた研修を行い、地域へ持ち帰って活用できるような伝達研修形式が多くなっています。オンライン開催が続いていますが、グループワークを取り入れ地域の連携という目標もあり、グループワークも取り入れながら、地域連絡会の大きさを超えた繋がりを持つよう企画運営しています。

令和3年度は市町村で制度改正の説明会ができていない声が多かったことから「令和3年度報酬改定の解釈 (Part 1、2の2回)」と「居宅介護支援事業所における管理者研修 (管理者の基本)」

令和4年度は「BCPセミナー」と「医療連携」

令和5年度は第1回を「BCPの訓練について」のテーマで開催しました。

## 委員会紹介

ケアマネジメント向上研修部会 部会長 佐藤 美保



ケアマネジメント向上研修部会では、ケアマネジメントに関する知識・視点・技術のスキルアップを目的に今年度合計14回の研修を企画・運営をしています。

ご存知の方も多くいらっしゃると思いますが、令和6年度における各法定研修において「適切なケアマネジメント手法 (以下、適ケア)」が取り込まれることとなります。生活の支援者でありケアマネジメントの専門職であるケアマネジャーにとって、アセスメント・支援・連携、それぞれの「視点の幅」を広げるために「適ケア手法」はとても有効な手法 (ツール) であると認識をしています。

今年度全6回、午前午後に分けると12回！日総研齊木先生の全体監修のもと「適ケア研修」(午前・適ケア講義、午後・適ケアを活用した事例検討) を、意欲的で前向きな部会メンバーが総力をあげて一 (いち) から研修を作り上げています。

各回専門職の先生にもご講義をお願いし、専門的な知見を学びつつ、午後の事例検討の際にその視点を生かしながら事例を分析 (部会で作成した演習シートを使用) することができる、そんな研修となっています。

この紙面がお手元に届いたころにはすでに4回目を実施済み…残すところあと2回…なのですが、「適ケア手法」を初めて学ぶ、という方大歓迎、わかりやすい内容となっていますので、令和6年度を迎える前にぜひお勧めの研修です。

また、ケアマネジャーの実務において欠かすことのできない「コーチングスキル」「スーパービジョンの視点」の研修も、これから開催の予定です。主任介護支援専門員研修・主任介護支援専門員更新研修受講直後に学びたい、というお声をいただいているため、年度末の開催で準備を進めています。学びを定着させるための機会としてもご検討くださると幸いです。詳しくは協会HPをご参照ください。

皆様にお会いできることを楽しみにしております。

～神奈川県で働くケアマネジャーが日々思ったことなどを綴っていきます～

# ケアマネリレーコラム

わんらいふ医療・介護相談室 齋藤 珠実

初めまして、皆様こんにちは。

相模原市中央区にあります、わんらいふ医療・介護相談室の齋藤珠実と申します。

相模原市は2010年、政令指定都市になりました。豊かな自然を残しつつ市内は交通の便がよく、橋本駅がリニア中央新幹線の停車駅に決まるなど生活がしやすい環境が整っています。

弊社ですが、居宅名に「医療・介護相談室」とありますように管理者の基礎資格が看護師の為、医療ニーズの高い方を支援させていただくことが多いです。

先日担当させていただいた方で病気の進行によりベッド上での生活となり、訪問

するといつも「手を握って」とおっしゃる方がいらっしゃいました。お互いあまり話はず、ただ目が合えばお互い微笑むくらいでしたが、お疲れだろうから帰ろうとすると「あなたいつも元気ね、手を握れば分かるよ。また来てね」と言って下さいました。何か課題があったとしても解決しようとするわけではなく、課題をそのままにしておくことも援助のひとつなのかなと感じることができました。

皆様に受け入れていただき、育てていただき、支援させていただく方たちの伴走者になれるよう精進してまいります。

## “かまくらびと”の生活支援を考える Part.2

(特非)かまくら地域介護支援機構 樽井 彰子



今、鎌倉の街中はインバウンドによる海外からの観光客で賑わっていますが、首都圏への通勤に便利な住宅地として開発され、終の棲家を求めて多くの中高年のサラリーマン層が移り住んできた町です。

私が地域福祉の世界に飛び込んだのは1980年代でした。当時の鎌倉は、鎌倉に住んではみたものの、暮らしにくさに不満を持つ人も多く、環境の問題や道路の問題などなど、特に女性たちは老後の暮らしへの不安を持ち、「やるっきゃないよ!」とどこかで聴いたような声掛けて、地域の高齢者への生活支援の市民活動を展開していました。行政と対立する構図から、次第に双方ともに成熟度を増し、関係性の改善へと向かい、行政と市民が協働する関係へと変化していきました。活発に市民活動が展開され、当時の住民参加型ホームヘルプサービスを提供する8団体で構成する「鎌倉市ホームヘルプサービス連絡会」が1998年に行った高齢者を対象とする暮らしの調査では、赤裸々に将来への在宅生活への思いが述べられています。調査の中から在宅サービスについての問いかけに「先のことは考えないことにしている」としながらも、「現行サービスについての内容・利用方法について良く知らない」「一定の年齢になったら福祉サービスの情報冊子の配布を望む」「気軽にサービスを受けるシステムを」「利用者の側に立った助言を」「支所ごとに福祉の案内や手続き、相談を行って欲しい」等、相談機能への希望が上げられていました。調査から20数年過ぎた現在、果たしてどれほど実現されただろうか? 「体に異常があった時にすぐに相談できる人や往診があると良い」「訪問看護や巡回診療を望む」地域包括ケアシステム鎌倉型を構築するさなかにおいて、実現へ近づいてはいるものの、この課題は今も続いています。将来の生活は?の問いに「願わくは花の下にて春死なむ その如月の望月の頃」と西行の歌を書いた人やJ.F.ケネディ大統領の就任演説を回答してくる高齢者もあり、老いへの不安、経済的不安、認知症への不安、死への不安、拭い去ることのできない数々の不安の中で、高齢者が今を懸命に生きている姿が伺えたものでした。

鎌倉市では制度開始直前の1999年5月に、かまくら地域介護支援機構を市民と介護保険事業者と鎌倉市の3者で設立しました。その後NPO法人化の中で、構成を市民と事業者とし、鎌倉市とは定款の中で協働の関係性を継続することとなりました。

支援機構は、介護保険にまつわる組織として、県内だけでなく全国でも珍しい組織であり、2004年からは医療と福祉のネットワーク会議の開催を継続し、多職種による研修やミーティングの場を開催してきました。現在はこの役割を鎌倉市医療介護連携相談センターへ移行しています。業種別の介護保険事業者連絡会の運営支援や多職種による研修や自主学習の場として、ターミナルケアを考える会in鎌倉、食支援研究会、生活支援塾等の運営の後方支援を行っています。

## ケアマネあるある



今年の夏は全国的に猛暑が続き、熱中症で体調を崩されるご利用者が多かったのではないのでしょうか。緊急訪問や受診同行、救急搬送など、ケアマネジャーにとっても大変な夏だったと思います。

先日、私が所属しているケアマネ連絡会の集まりの中で、ケアマネジャーの救急車への同乗が話題にあがりました。「身寄りのない人だったから仕方なく同乗した」「同乗して家族が到着するまで病院に付き添った」「事業所として同乗はしない」「同乗はせず救急隊に必要な情報を伝え、後で搬送先の病院に駆け付けた」等、様々な意見が出ました。ケアマネジャーはどこまでできるのか、日々悩みつつも、やむを得ず、支援の隙間をケアマネジャーが埋めることもあるでしょう。正解はないかもしれませんが、一人で悩まず、「こんなときどうしてる?」と、職場や地域の仲間と語り合いながら、改めて私たちの役割を考えていきたいと感じました。

広報出版委員 (M.K)

## 編集後記

前回の会報誌『ケアマネ通信』について、何名かの同志よりアンケートを頂戴しました。そのアンケートには、『ケアマネ通信』への熱い思いが記されており、私たち広報出版委員会のメンバーは、みな嬉しく拝読させていただきました。会員の皆さまへ情報を発信し、皆さまの“力”となれるよう広報紙を発行しておりますが、逆に会員の皆さまより“力”を貰っていることに改めて気づき、心がとても温かくなりました。

日頃、ICTやDXへの対応を意識することが多いですが、今回のアンケートのように言葉一つひとつに大きな意味、重みを再認識し、改めて言葉で伝えることの大切さを感じさせていただきました。心新たに“言

葉の重み”を感じながら利用者やご家族と向き合いたいと思います。もちろん、会員の皆さまにもこの“言葉の重み”を意識して広報紙を発行して参ります。

広報出版委員 (K)



## ■『第21回 神奈川県介護支援専門員研究大会』開催のお知らせ

『第21回 神奈川県介護支援専門員研究大会』を令和6年2月17日(土)に藤沢市居宅介護支援事業所連絡協議会の協力のもと、藤沢市民会館にて開催いたします。

今回の大会テーマは「支えあう地域の力 ～共にささえ つながる手と手～」です。

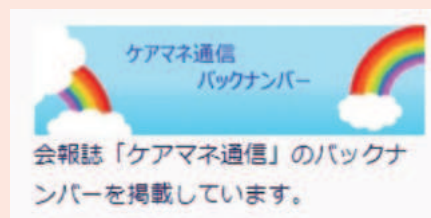
詳細は当協会HPをご覧ください。ご参加をお待ちしております。

## ■ケアマネ通信 アンケートご協力をお願い

今後のケアマネ通信がより良いものになるよう、アンケートを実施しております。

当協会ホームページ「ケアマネの森」のトップページ「ケアマネ通信バックナンバー」より、アンケート(Googleフォーム)にご協力ください。

<https://www.care-manager.or.jp/iinkai/kouho.html>



お手持ちのスマートフォンからも、ご回答いただけます。



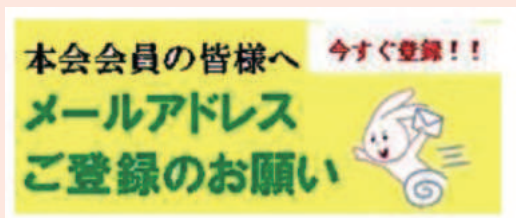
会員の皆さまからのご意見・ご要望をお待ちしています。

## ■メールアドレス登録のお願い

会員の皆様へ、当協会主催研修会等の情報をメールでご案内しています。

メールアドレスの登録がお済みでない方は、当協会ホームページ「ケアマネの森」のトップページ「メールアドレスご登録のお願い」より、ご登録をお願い致します。

メールアドレスを変更したい方も、こちらから変更をおこなってください。



◎編集 / 発行

一般社団法人

神奈川県介護支援専門員協会

広報・出版委員長 佐藤 明



Facebook  
はこちら↑



ホームページ  
ユーザーはこちら↑

## Contact

一般社団法人神奈川県介護支援専門員協会 事務局  
〒231-0023

横浜市中区山下町 23 番地 日土地山下町ビル 9 階

TEL 045-671-0284 FAX 045-671-0287

E-mail [jimu@care-manager.or.jp](mailto:jimu@care-manager.or.jp)

H P <https://www.care-manager.or.jp/>